

## 平成30年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	吉野ヶ里町立東脊振中学校		
2 所在地	吉野ヶ里町石動2709番地		
3 校長名	三上 智一		
4 学級数 児童生徒数	8学級（特別支援学級2含む） 175人	5 実施学年 児童生徒数	全学年 175人

### 6 取組のねらい

ユニバーサルデザイン（UD）についての学習を通して、年齢や性別、障がい、国籍などの多様な違いを認め合い、誰もが住みやすい社会づくりについて考える意識や思いやりの心を育む。

### 7 取組の実際

#### （1）ユニバーサルデザイン出前講座

佐賀県県民環境部県民協働課と吉野ヶ里町社会福祉協議会から講師を招き、バリアフリーの在り方やだれもが快適に暮らすことができる社会について考えさせることを目的に、講話と車いす操作体験を実施した。

講話では、UDの必要性や事例紹介、佐賀県のUDの取組についての説明があり、心のUDについても生徒に考えさせる内容が含まれていた。

車いす体験では、多目的トイレ、横に動く車いす、車いすが利用しやすい環境づくり等についての話の後、生徒たちは、講師の方の指導を受けながら車いすの操作を体験した。



<講演会の様子>



<車いす体験の様子>

#### <講座後の生徒の感想>

- ・ 体が不自由な人でも、不自由であることを意識せず暮らしていける社会を実現するために、私たち一人一人が貢献することが大切だと思った。
- ・ 心のバリアフリーが広がるためには、生活の中で使いにくいものや困っている人がいることに気づき、UDの取組を周りに広げることが大切だと思った。

## (2) 道徳教育の充実

本年度は、道徳の授業において、ユニバーサルデザイン教育と関連が深い内容項目B-(9)「相互理解、寛容」を重点目標の一つに掲げ、相手を尊重する心や思いやりの心を育むよう取り組んでいる。また、毎時間、学び合う活動を取り入れ、互いに自分の考えを出し合い、話し合い、深め合う授業を展開することで、主体的に学習に取り組み、切磋琢磨できる人間関係の育成を目指している。

＜内容項目B-(9)相互理解、寛容についての各学年の取組＞

### ①資料名「コトコの涙」（3年生）

老人ホームにボランティアで通っている中学2年生のコトコがホームで体験したある出来事を通して、互いの異なる個性や立場を尊重することの大切さに気付かされる話である。他者の個性や立場を尊重しながら他者とともに生きることの大切さを実感させたいと思い、授業を行った。



#### (生徒の感想)

- ・相手の気持ちや考えを読み取り理解し、尊重することが重要だと思った。
- ・相手のためだと思い行っていることも、時には相手に迷惑をかけてしまっていることがある。相手の立場に立って行動することが大切だと感じました。



### ②資料名「茂の悩み」（2年生）

中学校のバスケットボール部の新人戦の先発メンバーを巡る中で、キャプテンである茂の葛藤を描いた話である。相手を認め受け入れる心の大切さを実感させたいと思い、授業を行った。



#### (生徒の感想)

- ・仲間大切さや人の気持ちを考えることの大切さと大変さを学びました。
- ・人の努力を認めて信じるのが、相手を受け入れることにつながると感じました。



### ③資料名「約束」（1年生）

中学生の朝子は違うクラスで親友の舞子と約束したことがうまくいかず、二人の関係は気ままずくなり、その後の二人の心の葛藤を描いた話である。自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解させたいと思い、授業を行った。

(生徒の感想)

- ・人とのかかわりはとても難しいけど、自分が相手に広い心で話したり、聞いたりしたらいいと思う。
- ・相手を思いやり、相手の立場になって話すことばを考えたり、相手のことを思って行動したりすることは大切なことだと思う。



### (3) ポスター制作

美術の授業で、UDについて説明し、「UDに関するポスター制作」を夏休みの自由課題の一つとした。

生徒は、「みんながくらしやすいまちになるといいな」「こういうものがあったら便利だね」等について考えながら、UDについてわかりやすいポスターを作り、佐賀県UD作品コンテストに応募した。



<応募作品>

## 8 取組の成果と課題

本校は道徳教育を推進していることから、講師を招いてユニバーサルデザイン(UD)について体験した後、学んだことを深めるために、各学年において、道徳の授業を実践した。このことにより、身の回りにあるUDの現状について気づき、その必要性を感じるだけでなく、多様な価値を理解しお互いを認めあう心を育むことができた。

今後は、UDに対する関心を継続させていくことが課題であり、高齢者疑似体験、認知症見守り隊養成講座等の体験活動を取り入れていきたい。また、UDの学習を深めるために、道徳的価値を内面から支える道徳の授業を充実させる必要もある。さらに、UD学習の取組や成果を積極的に広報し、子どもたちの意識を高め定着させるとともに、授業をUD化することで、特別な支援が必要な子どもを含めた、全ての生徒にとって分かりやすい学習の場とするような授業改善も必要である。